

2.5 指標種(案)の選定根拠

指標種(案)の選定根拠(1)

整備メニュー	抽出の観点	整備・保全の目的を直接的に把握するための指標		副次的な機能を把握するための指標		備考	
		生物的指標・選定理由	評価する内容	生物的指標・選定理由	評価する内容		
【水確保】 雨水の利用	上位性	-	-	-	-	-	
	典型性	-	-	イヌビエ、エノコログサ等の草本類 人為的改変後に外来種とともに先駆的に生育する植物として選定。	生育種・生育範囲 ほとんど見られない、植物が見られる	集水路の維持管理に関わることから、種を特定せずに先駆的に生育するすべての植物を対象とする。	
		-	-	ゲンゴロウ類等の飛翔性水生昆虫類 凹部の水たまりのような小規模で形成期間が短い場所を利用するグループとして選定。	生息種・生息範囲 種：なし、少ない、普通、多い 範囲：1箇所に局在、複数箇所	種を特定せずにすべての水生昆虫類を対象とする。	
	外来種	-	-	ヒメジョオン、セイヨウタンポポ等 環境耐性に強い先駆種であり、人為的影響の指標として選定。	生育種・生育範囲 なし、散見される、多い	種を特定せずに、侵入するすべての外来種を対象とする。	
【水確保】 高水時の本川 からの導水	上位性	-	-	-	-	-	
	典型性	-	-	エビモ等の沈水植物 マコモ、ヒメガマ等の抽水植物 セリ、ミゾソバ等の湿生植物 水辺環境に依存するグループとして選定。	生育種・生育範囲 種：なし、少ない、普通、多い 範囲：1箇所に局在、複数箇所	種を特定せずにすべての水生植物などを対象とする。	
		特殊性	-	-	エキサイゼリ、ナガボノシロワレモコウ 湿地等の湿潤環境に生育する希少種であることから選定。	確認状況・生育範囲 状況：指標種を確認できず 指標種を確認 範囲：1箇所に局在、複数箇所	-
			-	-	オナモミ やや湿潤な環境に生育する希少種であることから選定。		-
			-	-	ホザキノフサモ 泥底～砂底に生育することから再生が期待できる希少種として選定。		-
			-	-	サクラソウ やや湿潤な環境に生育することから再生が期待できる希少種として選定。		-
			-	-	ヌカエビ 比較的水質のきれいな止水環境に生息する希少種として選定。		-
			-	-	ドブガイ 泥底～砂底に生息することから再生が期待できる希少種として選定。		-
	-	-	クイナ、タマシギ、ニホンアカガエル 湿地等の湿潤環境に生息することから再生が期待できる希少種として選定。	確認状況(繁殖・採餌等)・生息範囲 状況：指標種を確認できず、指標種を確認、採餌行動を確認、繁殖を確認 範囲：1箇所に局在、複数箇所	-		
	外来種	-	-	アレチウリ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ等の外来植物 在来種へ影響を及ぼす外来種であり、人為的影響の指標として選定。	生育種・生育範囲 なし、散見される、多い カーペット状	種を特定せずに、侵入するすべての外来種を対象とする。	
-		-	オオクチバス、ブルーギル等の外来魚 導水に伴い荒川から侵入する可能性のある外来魚であり、在来種への影響が大きいグループとして選定。	生息種 なし、タイリクバラタナゴ等 オオクチバス等の魚食性魚	-		

種数の多い、普通、少ないの基準数は、現状における上池での確認状況を参考に数値を設定する。

指標種（案）の選定根拠(2)

整備メニュー	抽出の観点	整備・保全の目的を直接的に把握するための指標		副次的な機能を把握するための指標		備考	
		生物的指標・選定理由	評価する内容	生物的指標・選定理由	評価する内容		
【水確保以外】 ワンドの創出	上位性	-	-	<b>カワセミ、アオサギ</b> 止水・緩流環境を採餌場として小魚を採捕する魚食性の上位種として選定。	<b>確認状況(繁殖・採餌等)・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず、指標種を確認、採餌行動を確認、繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-	
	典型性	<b>魚類(小型魚)</b> 止水環境に依存するグループとして選定	<b>生息種・生息範囲</b> 種： なし、少ない、普通、多い 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	<b>エビモ等の沈水植物</b> 水辺環境に依存するグループとして選定。	<b>生育種・生育範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認 種： なし、少ない、普通、多い 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	種を特定せずにすべての水生植物を対象とする。	
		-	-	<b>マコモ、ヒメガマ等の抽水植物、セリ、ミゾソバ等の湿生植物</b> 水辺環境に依存するグループとして選定。			種を特定せずにすべての水生植物を対象とする。
		-	-	<b>カモ類</b> 越冬地として止水環境に依存するグループとして選定。			
		-	-	<b>クサガメ</b> 止水環境に生息し、陸上で産卵することから水域と陸域の連続性を指標する種として選定。	<b>確認状況(繁殖・採餌等)・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認、採餌行動を確認、繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-	
		-	-	<b>イトトンボ類</b> 幼虫は止水環境に生息し、成虫は止水環境の周辺で生息することから水域と陸域と一体となった環境を指標する種として選定。	<b>生息種・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認	-	
		-	-	<b>ゲンゴロウ類等の飛翔性水生昆虫類</b> 止水環境に依存する代表的なグループとして選定。	種： なし、少ない、普通、多い 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	種を特定せずにすべての水生昆虫類を対象とする。	
	特殊性	<b>ヌカエビ</b> 比較的水質のきれいな止水環境に生息する希少種として選定	<b>確認状況・生育範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	<b>メダカ、ツチガエル</b> 中池、下池で生息が確認されている希少種であり、分布の拡大を監視するために選定。	<b>確認状況(繁殖)・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認 繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-	
		-	-	<b>ニホンアカガエル</b> 止水環境に生息することから再生が期待できる希少種として選定。		-	
		-	-	<b>ドブガイ</b> 泥底～砂底に生息することから再生が期待できる希少種として選定。		<b>確認状況・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-
	外来種	-	-	<b>アレチウリ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ等の外来植物</b> 在来種へ影響を及ぼす外来種であり、人為的影響の指標として選定。	<b>生育種・生育範囲</b> なし、散見される、多い カーペット状	種を特定せずに、侵入するすべての外来種を対象とする。	
		-	-	<b>オオクチバス、ブルーギル等の外来魚</b> 在来種への影響が大きいグループとして選定。	<b>生息種</b> なし、タイリクバラタナゴ等 オオクチバス等の魚食性魚	種を特定せずに、侵入するすべての外来種を対象とする。	

種数の多い、普通、少ないの基準数は、現状における上池での確認状況を参考に数値を設定する。

指標種（案）の選定根拠(3)

整備メニュー	抽出の観点	整備・保全の目的を直接的に把握するための指標		副次的な機能を把握するための指標		備考
		生物的指標・選定理由	評価する内容	生物的指標・選定理由	評価する内容	
【水確保以外】 エコトーン の創出	上位性	-	-	<b>キツネ</b> 主にネズミ類を餌とする雑食性の上位種として選定	<b>確認状況（繁殖・採餌等）・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず、指標種を確認、採餌行動を確認、繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-
		-	-	<b>タヌキ</b> 液果類等の植物や、ネズミ類、カエル類、昆虫類の動物を餌とする雑食性の上位種として選定。		-
	典型性	<b>マコモ、ヒメガマ等の抽水植物、セリ、ミゾソバ等の湿生植物</b> 湿潤環境に依存するグループとして選定。	<b>生育種・生育範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認	-	-	種を特定せずにすべての水生植物を対象とする。
		<b>ヤナギタデ、エノコログサ等の一年生植物</b> 一年生の草本類の指標種として選定。	種： なし、少ない、普通、多い	-	-	-
		<b>オギ、ススキ等の多年生植物</b> 多年生の草本類の指標種として選定。	範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-	-	-
		<b>ヤナギ類、ハンノキ等の木本類</b> 湿潤環境に生育する木本類の指標種として選定。	<b>生育種・生育範囲</b> 種： なし、少ない、普通、多い	-	-	-
	特殊性	-	-	<b>エキサイゼリ</b> 湿地等の限定された生育環境を必要とする希少種であることから選定。	<b>確認状況・生育範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-
		-	-	<b>ナガボノシロワレモコウ</b> 湿地等の湿潤環境に生育する希少種であることから選定。		-
		-	-	<b>オナモミ</b> やや湿潤な環境に生育する希少種であることから選定。		-
		-	-	<b>カヤネズミ</b> ヨシ原に営巣する哺乳類として選定。	<b>確認状況（繁殖）・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず、指標種を確認、繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-
		-	-	<b>オオヨシキリ</b> ヨシ原に営巣する鳥類として選定		-
		-	-	<b>サクラソウ</b> やや湿潤な環境に生育することから再生が期待できる希少種として選定。	<b>確認状況・生育範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-
		-	-	<b>クイナ、タマシギ、ニホンアカガエル</b> 湿地等の湿潤環境に生息することから再生が期待できる希少種として選定。	<b>確認状況（繁殖・採餌等）・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず、指標種を確認、採餌行動を確認、繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-
外来種	-	-	<b>アレチウリ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ等の外来植物</b> 在来種へ影響を及ぼす外来種であり、人為的影響の指標として選定。	<b>生育種・生育範囲</b> なし、散見される、多い カーペット状	種を特定せずに、侵入するすべての外来種を対象とする。	

種数の多い、普通、少ないの基準数は、現状における上池での確認状況を参考に数値を設定する。

指標種（案）の選定根拠(4)

整備メニュー	抽出の観点	整備・保全の目的を直接的に把握するための指標		副次的な機能を把握するための指標		備考	
		生物的指標・選定理由	評価する内容	生物的指標・選定理由	評価する内容		
【水確保以外】 河畔林の保全	上位性	-	-	<b>キツネ</b> おもにネズミ類を餌とする雑食性の上位種として選定。	<b>確認状況(繁殖・採餌等)・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず、指標種を確認、採餌行動を確認、繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-	
		-	-	<b>タヌキ</b> 液果類等の植物や、ネズミ類、カエル類、昆虫類の動物を餌とする雑食性の上位種として選定。		-	
		-	-	<b>アオサギ</b> 河畔林をねぐらとして利用し、魚類を餌とする上位種として選定。		<b>確認状況(繁殖・採餌等)・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず、指標種を確認、採餌行動を確認、繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-
		-	-	<b>ゴイサギ</b> 河畔林をねぐらとして利用し、魚類、両生類等を餌とする上位種として選定。			-
	典型性	-	-	<b>植物(河畔林内生育種)</b> 河畔林の階層構造(林床、低木、中木等)を形成する植物として選定。	<b>生育種・生育範囲</b> 種： 偏りがある、多様な種構成となっている	種を特定せずにすべての植物を対象とし、植生遷移の過程を評価する。	
		-	-	<b>哺乳類(その他)、鳥類(その他)、爬虫類(アオダイショウ、ヤマカガシ等)、両生類(アズマヒキガエル等)、昆虫類(コクワガタ等)</b> 河畔林における生息種と利用状況を把握することにより河畔林の保全状況を評価する動物群として選定。	<b>生息種・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認、 種： なし、少ない、普通、多い 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	種を特定せずにすべての動物を対象とし、河畔林の保全状況を評価する。	
	特殊性	<b>河畔林構成種</b> 河畔林を構成する樹種ごとの生育状況、種組成の変化から河畔林の保全状況を評価するために選定。	<b>生育種・生育範囲</b> 種、範囲： 従前と同じか縮小、拡大した	<b>ハチモドキハナアブ</b> クヌギ林を生息環境としている希少種として選定。	<b>確認状況・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認、 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-	
		-	-	<b>魚類(メダカ)</b> カバーのある河岸付近を利用する代表的な種として選定	<b>生息種・生息範囲</b> 種： なし、少ない、普通、多い 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	種を特定せずに、カバー下を利用する全ての魚類を対象とする。	
	外来種	-	-	<b>アレチウリ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ等の外来植物</b> 人為的影響の指標として選定。	<b>生育種・生育範囲</b> なし、散見される、多い カーペット状	種を特定せずに、侵入するすべての外来種を対象とする。	

種数の多い、普通、少ないの基準数は、現状における上池での確認状況を参考に数値を設定する。

指標種（案）の選定根拠(5)

整備メニュー	抽出の観点	整備・保全の目的を直接的に把握するための指標		副次的な機能を把握するための指標		備考	
		生物的指標・選定理由	評価する内容	生物的指標・選定理由	評価する内容		
【水確保以外】 ハンノキ林の 保全	上位性	-	-	<b>キツネ</b> おもにネズミ類を餌とする雑食性の上位種として選定。	<b>確認状況(繁殖・採餌等)・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず、指標種を確認、採餌行動を確認、繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-	
		-	-	<b>タヌキ</b> 液果類等の植物や、ネズミ類、カエル類、昆虫類の動物を餌とする雑食性の上位種として選定。		-	
		-	-	<b>アオサギ</b> ハンノキ林をねぐらとして利用し、魚類を餌とする上位種として選定。		<b>確認状況(繁殖・採餌等)・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず、指標種を確認、採餌行動を確認、繁殖を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-
		-	-	<b>ゴイサギ</b> ハンノキ林をねぐらとして利用し、魚類、両生類等を餌とする上位種として選定。			-
	典型性	-	-	<b>植物(ハンノキ林内生育種)</b> ハンノキ林の階層構造(林床、低木、中木等)を形成する植物として選定。	<b>生育種</b> 種： 偏りがある、多様な種構成となっている	種を特定せずにすべての植物を対象とし、植生遷移の過程を評価する。	
		-	-	<b>哺乳類(その他)、鳥類(その他)、爬虫類(アオダイショウ、ヤマカガシ等)、両生類(アズマヒキガエル等)、昆虫類(コクワガタ等)</b> ハンノキ林における生息種と利用状況を把握することによりハンノキ林の保全状況を評価する動物群として選定。	<b>生息種・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認 種： なし、少ない、普通、多い 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	種を特定せずにすべての動物を対象とし、ハンノキ林の保全状況を評価する。	
	特殊性	<b>ハンノキ</b> ハンノキ林の更新(保全)状況を評価するために選定	<b>生育範囲</b> 従前と同じか縮小 拡大した	<b>サクラソウ</b> やや湿潤な環境に生育することから再生が期待できる希少種として選定。	<b>確認状況・生育範囲</b> 状況： なし、あり 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-	
		-	-	<b>ミドリシジミ、オナガミズアオ</b> ハンノキを食樹としている希少種として選定。	<b>確認状況・生息範囲</b> 状況： 指標種を確認できず 指標種を確認 範囲： 1箇所に局在、複数箇所	-	
	外来種	-	-	<b>アレチウリ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ等の外来植物</b> 人為的影響の指標として選定。	<b>生育種・生育範囲</b> なし、散見される、多い カーペット状	種を特定せずに、侵入するすべての外来種を対象とする。	

種数の多い、普通、少ないの基準数は、現状における上池での確認状況を参考に数値を設定する。

指標種(案)総括表

類	科	種	No.	希少種の指定状況		確認状況						上典特 の区分	生息環境
				2002年度調査		2003年度調査							
				環境省	埼玉県	上池	中池	下池	上池	中池	下池		
植物	アマモ	ホザキノフサモ	1		EN							特	水域の水中に生育する
植物	イネ	イヌビエ	2									典	
植物	イネ	エノコログサ	3									典	
植物	イネ	オギ	4									典	
植物	イネ	ススキ	5									典	
植物	イネ	マコモ	6									典	
植物	ウリ	アレチウリ	7									外	
植物	カバノキ	ハンノキ	8									典・特	
植物	ガマ	ヒメガマ	9									典	
植物	キク	オオブタクサ	10									外	
植物	キク	セイタカアワダチソウ	11									外	
植物	キク	セイヨウタンポポ	12									外	
植物	キク	ヒメジョオン	13									外	
植物	キク	オナモミ	14									特	
植物	サクラソウ	サクラソウ	15	VU	CR							特	川岸の低湿原野に生育する
植物	セリ	セリ	16									典	
植物	セリ	エキサイゼリ	17	EN	CR							特	水際などの氾濫原の植物として水辺や水田周辺に生育する
植物	タデ	ミソソバ	18									典	
植物	タデ	ヤナギタデ	19									典	
植物	ナヤギ	ヤナギ類	20									典	
植物	バラ	ナガボノシロワレモコウ	21		NT							特	水際などの氾濫原の植物として水辺や水田周辺に生育する
植物	ヒルムシロ	エビモ	22									典	
植物	-	河畔林内生育種	23									典	
植物	-	ハンノキ林内生育種	24									典	
植物	-	河畔林構成種	25									特	
哺乳類	-	その他	26									典	
哺乳類	イヌ	キツネ	27		VU							上	農耕地や森林、原野、集落地が混在する環境を好む
哺乳類	イヌ	タヌキ	28		NT1,2							上	樹林地から田畑及び住宅地近くまで生息する
哺乳類	ネズミ	カヤネズミ	29		NT1,2							特	ヨシ、オギ等に球巣を作り生息する
鳥類	-	その他	30									典	
鳥類	カワセミ	カワセミ	31		NT2							上	開放水面を餌場とする
鳥類	ガンカモ	カモ類	32									典	
鳥類	クイナ	クイナ	33		(VU)							特	河岸や池沼の湿地環境に生息する
鳥類	サギ	アオサギ	34									上	
鳥類	サギ	ゴイサギ	35									上	
鳥類	タマシギ	タマシギ	36		CR(EN)							特	広い水田地帯で繁殖・越冬する
鳥類	ヒタキ	オオヨシキリ	37									特	
爬虫類	イシガメ	クサガメ	38									典	
爬虫類	ヘビ	アオダイショウ	39									典	
爬虫類	ヘビ	ヤマカガシ	40									典	
両生類	アカガエル	ツチガエル	41		NT2							典	池・水田に生息する
両生類	アカガエル	ニホンアカガエル	42		(NT)							典・特	周辺に樹林地、草地のある池沼や水田に生息する
両生類	ヒキガエル	アズマヒキガエル	43									典	
昆虫類	イトトンボ	イトトンボ類	44									典	
昆虫類	クワガタムシ	コクワガタ	45									典	
昆虫類	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ類	46									典	
昆虫類	シジミチョウ	ミドリシジミ	47		NT1							特	ハンノキの若齢樹を主な食草とする
昆虫類	ハナアブ	ハチモドキハナアブ	48		NT1							特	クヌギ林を生息環境とする
昆虫類	ヤママユガ	オナガミズアオ	49		LP							特	ハンノキを食草とする
魚類	-	小型魚	50									典	
魚類	サンフィッシュ	オオクチバス	51									外	
魚類	サンフィッシュ	ブルーギル	52									外	
魚類	メダカ	メダカ	53	VU	VU							典・特	池や水田などの水生植物の繁茂した浅瀬に生息する
貝類	イシガイ	ドブガイ	54		NT2							典・特	ヘドロの堆積していないプランクトンの多い止水域に生息する
甲殻類	ヌマエビ	ヌカエビ	55		EN							特	比較的清潔な池に生息する

希少種の指定状況

環境省：環境省レッドデータブック（植物、哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、汽水・淡水魚類、無脊椎動物）

埼玉県：さいたまレッドデータブック（植物編、動物編）

カテゴリー

絶滅（EX）

絶滅危惧 類（CR+EN） 絶滅危惧 A類（CR） 絶滅危惧 B類（EN） 絶滅危惧 類（VU）

準絶滅危惧（NT1、NT2） 情報不足（DO） 絶滅のおそれのある地域個体群（LP）

：確認エリアが特定されているもの

：確認エリア区分がなされていないもの

確認状況が全て空欄のものは、近年確認されていないもの

上：上位性

典：典型性

特：特殊性

外：外来種